

授業改善書

科目名	書道
担当者	山本まり子

授業の概要

書・文字の変遷を辿りながら、実技・鑑賞等を通して、美的・規範的とされるいくつかの作品、及びそれに関連する歴史的・文化的事項について理解を深める。さらにそれらを基盤とし、毛筆・硬筆による書写力の向上を図る。本講座は教職科目であり、書写・書道教育に関する指導力の育成をも行う。

授業の問題点

本講座は教職科目であることから、教員（山本）と受講生とのやりとりだけではなく、極力、受講生に対して発言を促し、また、受講生間における相互批評の積極性も促した。2017年度、及び2018年度の受講生はこちらが投げかけた質問に対して自身の意見は述べるものの、クラスメイトへの質問等について、自主性があまり見られなかった。今年度（2019年度）はその反省を踏まえ、工夫した結果、やや改善が見られた。しかし、本アンケートにおける「質問や発言をしましたか」の問いに対する回答の数値は「4.00」であった。

学生の授業満足度

本アンケートにおける「授業満足度」の問い（2つ）に対する回答の数値は「4.69」・「4.77」である。遅刻・欠席の多い受講生に対しては個別に注意する等、厳しい指導も行ってきたが、この数値を見る限り、私自身が考える指導の在り方について、受講生との間に認識のずれはないと確信した。なお、「テキストなどの資料は適切でしたか」について、「4.56」であった。教務課の方に印刷依頼を行ったが、適切にご対応頂いた。受講生の満足度に大いに関係していると思われる。末文ながら感謝申し上げます。

授業改善の課題と方策

上記の「問題点」を踏まえ、新学習指導要領において重きが置かれている受講生間の学び、双方向の学習の強化について検討しているところである。作品鑑賞の際、これまでは歴史的名筆とされる作品を取り上げていたが、一昨年度から受講生による自作俳句を筆で書し、作品化するという試みを行っている。俳句そのものもよい作品がいくつもあり、意欲・関心を高めることが出来た。概ね受講生にも好評であり、ねらい通りであった。昨年度の授業を通して、思い切ってそこに焦点を当てて相互批評会を実施してもよいと思った。しかし、今年度の受講生に意思確認を行ったところ、人前で自作作品を観られることに戸惑いがある受講生が混在していることが判明した。無理のない課題設定を行い、再検討を行う所存である。「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」の結果について「4.69」であった。今年度、実用的な書（たとえば、熨斗袋の表書き、書簡文等）の授業内容の充実を図った。その効果もあったのではないかと考えている。次年度も引き続きその方向性で進めていきたい。心から楽しいと思ってもらえるように、少しでも受講生の達成感・満足度を高めるべく、解り易い内容、教示方法についても研究し、研鑽を積む所存である。

その他

特になし。